

JOMF 派遣医師便り (2013. 1)

◆シンガポール◆

A型肝炎

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

A型肝炎はA型肝炎ウイルスの経口感染により起こります。潜伏期は2から6週（平均4週）です。発熱、倦怠感、食思不振、嘔吐などの消化器症状の他、黄疸、濃色尿、灰白色便などを認めます。1～2カ月の経過の後に回復します。慢性化せず、劇症化は稀で予後は良好です。

成人では小児に比べ、臨床症状も肝障害の程度も強い傾向があります。その他、病気についての詳しい情報は他書を御参照ください。

シンガポールのA型肝炎患者さんの年間報告数は2007年から2011年までの5年間の平均では88人/年でした。

日本の感染症情報センター発表資料によりますとほぼ同時期（2006年から2010年までの5年間）の日本のA型肝炎の報告数は221人/年とのことです。

シンガポールの居住人口は530万人で、日本の約23分の1である事を考えますと、居住人口当たりの発生数は日本の約9倍ということになります。

ただ、これがシンガポールにいとA型肝炎にかかる可能性が日本の9倍あるということではありません。

A型肝炎は潜伏期間が長い（平均1カ月）こと、シンガポールは食料のほとんどが輸入であることや、国外との、人・物資の交流が多いため、純粋な国内発症例はあまり多くないと推察され、実際は、輸入例や近隣諸国から治療のために来ていらっしゃる方も多いと考えられるからです。

かつては衛生的に問題のあると思われる食堂、フードコート（小規模な料理屋の集合体）などが多くあったようですが、衛生局は1997年から、各店舗の衛生状態を評価する制度を開始し、各店舗はその評価ランクを見えるところに掲示しなくてはならなくなりました。

評価ランクは A, B, C, D の 4 段階で、現在では B 以上が 85% となっており、評価が低い店は営業を継続することが事実上、困難になっています。食器も、かつては、金属製のものの使いまわしで、濡れたままの食器が多かったのですが、今では、多くが使い捨てとなっています。

当地は上記のように、以前に比べ、かなり清潔になり、少なくとも日本人が通常訪れるような場所での感染の機会は減っていると思います。しかし、当地から近隣諸国に出張やご旅行をされる場合には、感染の機会は多々あると思われるので、やはり、予防は必要と考えられます。

日本から当地に赴任してこられる方は、現在では多くが 30 代、40 代の方となっていますが、それらの方のほとんどが A 型肝炎ウイルス抗体の自然免疫がない状態ですので、予防するためにはワクチンを打つことが必要になります。

日本での A 型肝炎ワクチンは 3 回打ちが主流ですが、シンガポールでは量が異なることもあり、2 回打ちです。2 回目は 1 回目の後 6 カ月（～18 カ月）となっています。

ワクチン効果は 1 回目の接種の後 2 週後で、94% の方に出てくるとされています。A 型肝炎の潜伏期間の平均は 1 カ月なため、曝露後の接種も効力があることとなります。このため、特に、発展途上国に行く場合には、出発間際でも打っていかれたほうがよいということになります。

当院では随時、接種が可能です。また、B 型肝炎ワクチンを含んだワクチンも頻繁に接種しております。

どうぞ一度ご検討ください。